

令和3年度 幼児教育調査結果

令和4年3月

鳥取県教育委員会

鳥取県幼児教育センター



鳥取県教育委員会 幼児教育調査

検索

I 調査の概要

1 目的

- 幼保小の連携・接続の状況や学校生活への適応に対する取組の状況、教職員の研修状況等を調査し、次期幼児教育振興プログラム改訂、及び今後の教育施策の参考資料とする。
- 園における特別支援教育の取組状況や接続カリキュラム編成状況等を調査し、県内の幼児教育と小学校教育のより一層の充実、円滑な接続に向けた基礎資料とする。

2 調査時期 令和3年10月

3 対象

- ①鳥取県内幼稚園・認定こども園・保育所（合計300園）（以下、「園」）
令和3年度：新規に地域型保育事業所（38園）、届出保育施設（57園）にも調査
- ②鳥取県内小学校・義務教育学校（122校）（以下、「小学校」）

4 回答

	調査対象数			回収率		
				R3	H28	H24
幼稚園	国公立	4	16	100%	100%	100%
	私立	12				
幼保連携型 認定こども園 (幼稚園型認定こども園を含む)	公立	15	41	100%	100%	100%
	私立	26				
保育所 (保育所型認定こども園を含む)	公立	79	148	100%	100%	85%
	私立	69				
地域型保育事業所			38	100%		
届出保育施設			57	86%	在園児がない等の理由	
小学校・義務教育学校	国公立		122	100%	100%	100%

5 調査項目

幼稚園・認定こども園・保育所 等		小学校・義務教育学校	
1	幼児の姿について ・全体的な様子		
2	地域の小学校との連携・接続について (1) 連携の有無 (2) 連携の内容 ①連携(交流)担当者の位置づけ ②年間連携(交流)計画の有無 ③連携したことによる成果 (3) 連携実施しない理由	1	地域の園との連携・接続について (1) 連携の有無 (2) 連携の内容 ①担当者の位置づけ ②年間連携(交流)計画の有無 ③連携したことによる成果 (3) 連携実施しない理由
3	小学校との交流・連携内容について (1) 交流・連携の内容 (幼児と児童、教職員、保護者)		
4	アプローチカリキュラムの編成について (1) 編成の有無 (2) 小学校教職員との連携・協議の有無 ③編成の際に大切にしていること	2	スタートカリキュラムの編成について (1) 編成の有無 ②校区の園との連携・協議の有無 ③編成の際に大切にしていること
5	接続期の子どもの姿について (1) 小学校への接続を意識して特に大切にしていること	3	接続期の子どもの姿について (1) 入学当初の1年生の姿として気になること
6	他園との交流について (1) 交流実施の有無 (2) 内容		※赤字は、新規調査項目 水色項目は、園・小学校共通の調査項目
7	教職員の研修について (1) 園外での研修状況 ①園外研修の充実状況 ②園外研修へ参加しづらい理由 (2) 園内での研修の状況 ①年間研修計画の有無 ②研修計画内の研究テーマの設定の有無 ③正規職員以外の任用の異なる職員に対する研修機会の確保の有無 ④園内研修の充実状況 ⑤園内研修の充実しない理由 ⑥園内研修時間確保のために工夫していること (自由記述) (3) 公開保育・研究保育の実施状況・回数		
8	特別支援教育について (1) 特別支援教育を担当する教職員の配置の有無 (2) 園内の特別支援教育支援体制		
9	子育て・親育ちの支援について ・子育ての支援の具体的内容(在園児、在園児以外)		

Ⅱ 調査結果

1	【園・小学校】幼保小の連携・接続について	1
	(1) ①連携の有無	
	(2) ①分掌の中の連携（交流）担当職員の位置づけ	
	②年間連携（交流）計画の作成	
	③小学校・園と連携したことによる成果	
2	【園・小学校】接続カリキュラムについて	3
	(1) 【園】アプローチカリキュラムについて	
	①アプローチカリキュラム編成の有無	
	②小学校教職員との連携・協議の有無	
	③編成する際に大切にしていること	
	(2) 【小学校】スタートカリキュラムについて	
	①スタートカリキュラム編成の有無	
	②校区の園との連携・協議の有無	
	③編成する際に大切にしていること	
3	【園・小学校】接続期の子どもの姿について	7
	(1) 【園】就学前に小学校への接続を意識して特に大切にしていること	
	(2) 【小学校】入学当初の1年生の姿として気になること	
	(3) 【園】と【小学校】の結果比較	
4	【園】小学校との交流・連携内容について	10
	(1) 小学校との交流・連携の内容	
	【幼児と児童の交流】【教職員の交流・連携】【保護者の交流】	
5	【園】他園との交流について	12
	(1) 他の園との交流の実施	
	(2) 交流の内容	
6	【園】幼児の姿について	13
7	【園】教職員の研修について	14
	(1) 園外での研修状況	
	①教職員の園外研修への積極的な参加	
	②園外研修に積極的に参加しづらい理由	
	(2) 園内での研修状況	
	①年間研修計画の作成の有無	
	②研究テーマを意識した計画の作成	
	③正規職員以外の任用の異なる教職員への研修機会の確保の有無	
	④園内研修の充実	
	⑤園内研修が充実していない理由	
	⑥園内研修時間確保のために工夫していること<自由記述>	
	(3) 公開保育・研究保育の実施状況	
	①令和3年度公開保育・研究保育の実施・実施する予定	
	②「実施した」「実施する予定」園の公開保育・研究保育の内容	
8	【園】特別支援教育について	19
	(1) 園務分掌の中で特別支援教育を担当する教職員配置	
	(2) 園内の特別支援教育体制	
9	【園】子育て・親育ちの支援について	20

【園全体（経年比較）】・・・地域型保育事業所・届出保育施設以外の205園

（※令和3年度、新規に調査対象としたため）

【園全体】・・・・・・回答したすべての施設種の園 292園

※自由記述は、一部抜粋

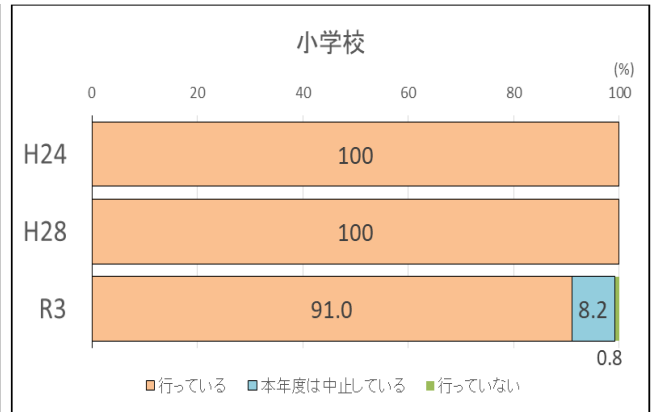
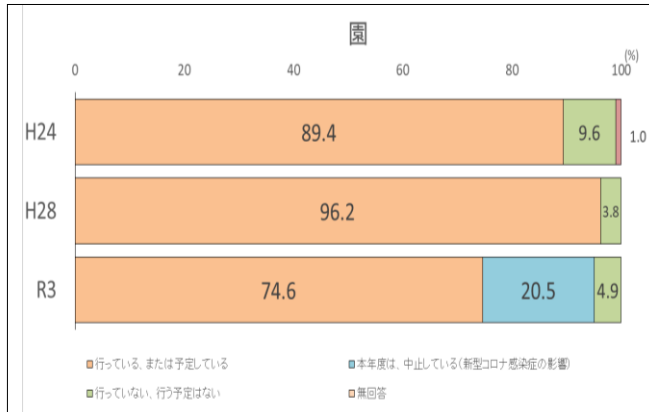
II 調査結果

1 幼保小の連携・接続について

《「園」・「小学校」 同一調査》

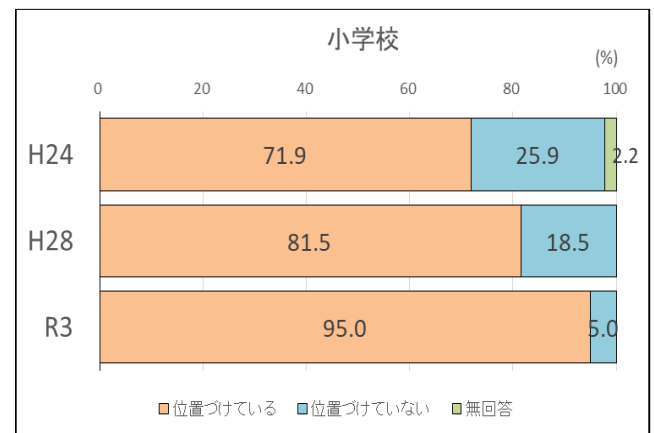
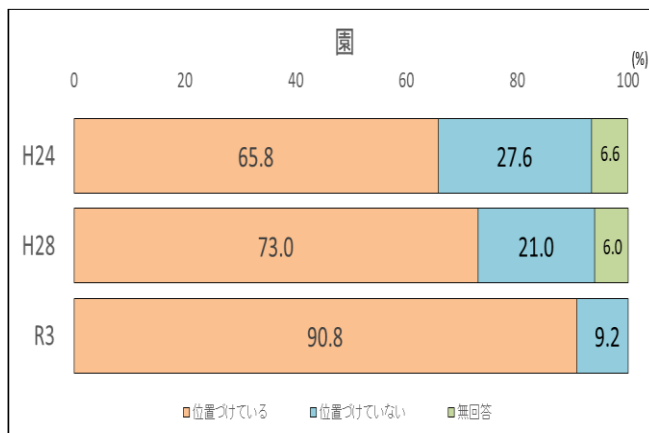
(1) 令和3年度の地域の小学校・園との連携・接続について

①連携の有無

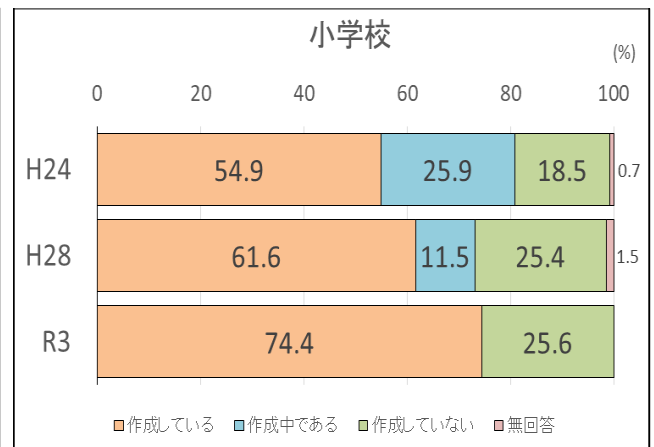
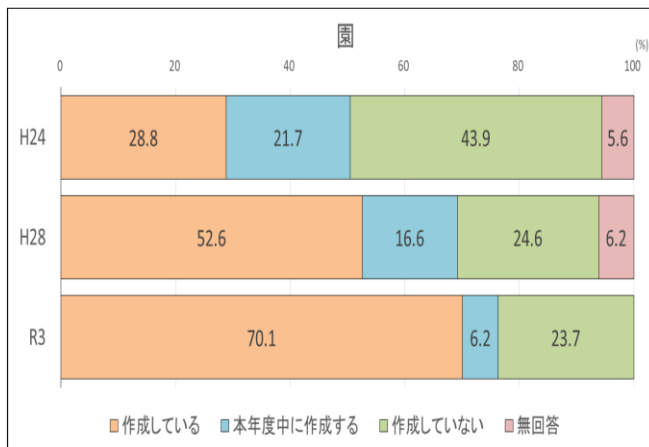


(2) (1) で「行っている、または予定している」「本年度は中止している（新型コロナウイルス感染症の影響）」と答えた園・小学校の回答

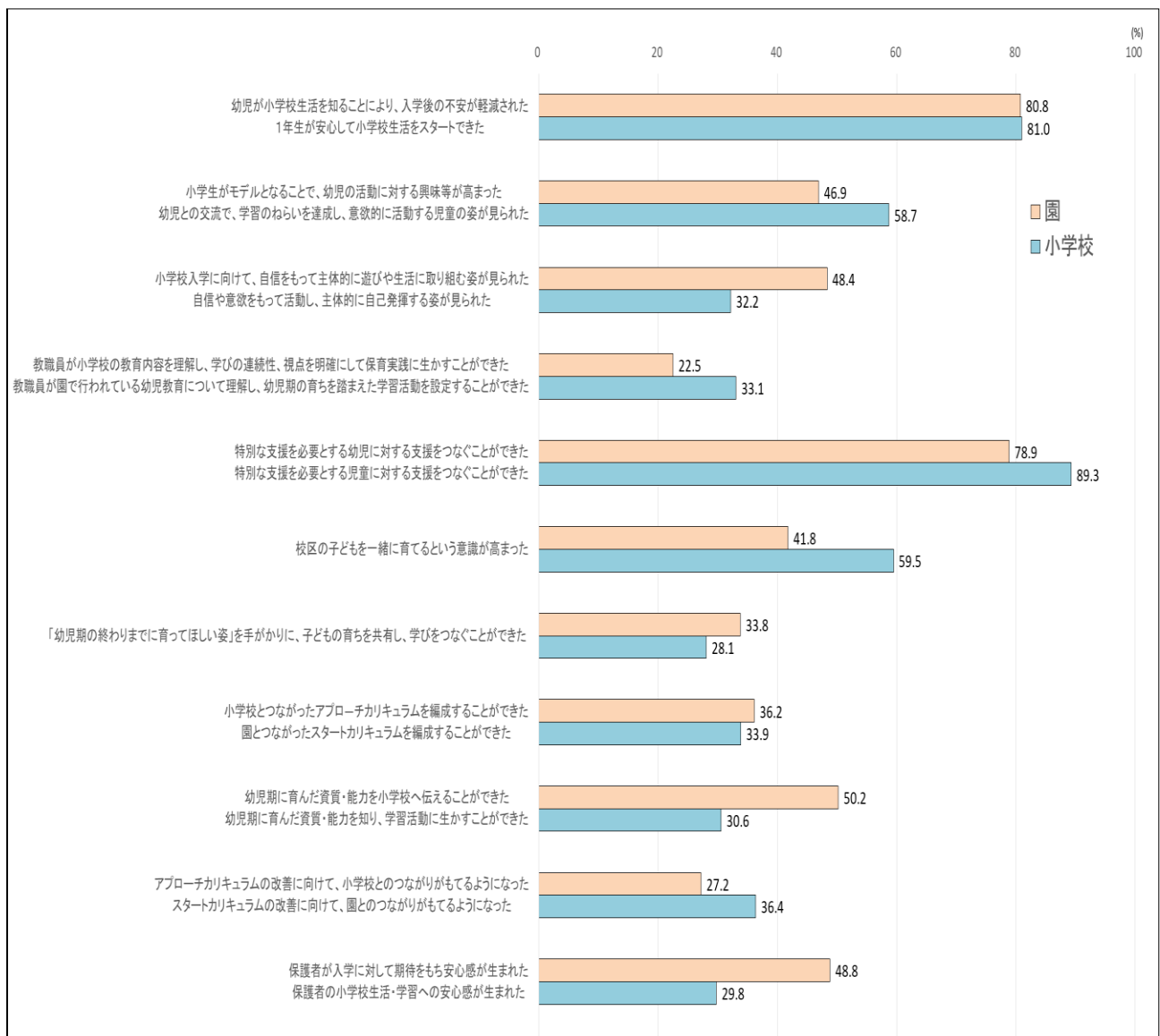
①分掌の中の連携（交流）担当職員の位置づけ



②年間連携（交流）計画の作成



③小学校・園と連携したことによる成果（該当するものすべてに○）



<その他（自由記述）>

○【園】

- ・小学校教員に園児の姿に直接ふれていただく機会を設けたことで園児理解につながった。
- ・互いに保育や授業を見合うことで相互理解が深まり、保育者の長期的な視点に立った実践へつながった。
- ・アプローチカリキュラム編成に向けての話を進めている。

○【小学校】

- ・互いの保育・学習場面を参観したり、研究会に参加したりして、教育内容の相互理解を進めた。
- ・校区の保幼小で集まり、小学校の授業を参観し、情報交換する場ももてた。

○幼保小の連携・接続について

- ・園・小学校双方の連携（交流）担当者の位置づけが進み、計画的・継続的な取組が推進されている。そのため、約半数の園で、児童との交流活動が充実し、幼児が小学校入学を楽しみにし、主体的な遊びや生活に取り組む姿につながっていると感じている。
- ・園においては、幼児期に育んだ資質・能力を小学校に伝えたり、保護者が入学に対して期待や安心感をもったりする等、連携・接続の成果が表れてきている。
- ・小学校においては、幼児と児童の交流活動が充実したり、1年生の安心感のあるスタートにつながったりしている。また、どの項目についても、約3割以上の小学校等が連携したことの成果を感じており、校区内の園と小学校等の組織がつながり、教職員の継続した取組が推進されていることが分かる。

2 接続カリキュラムについて

≪「園」・「小学校」調査≫

(1) 【園】アプローチカリキュラムについて

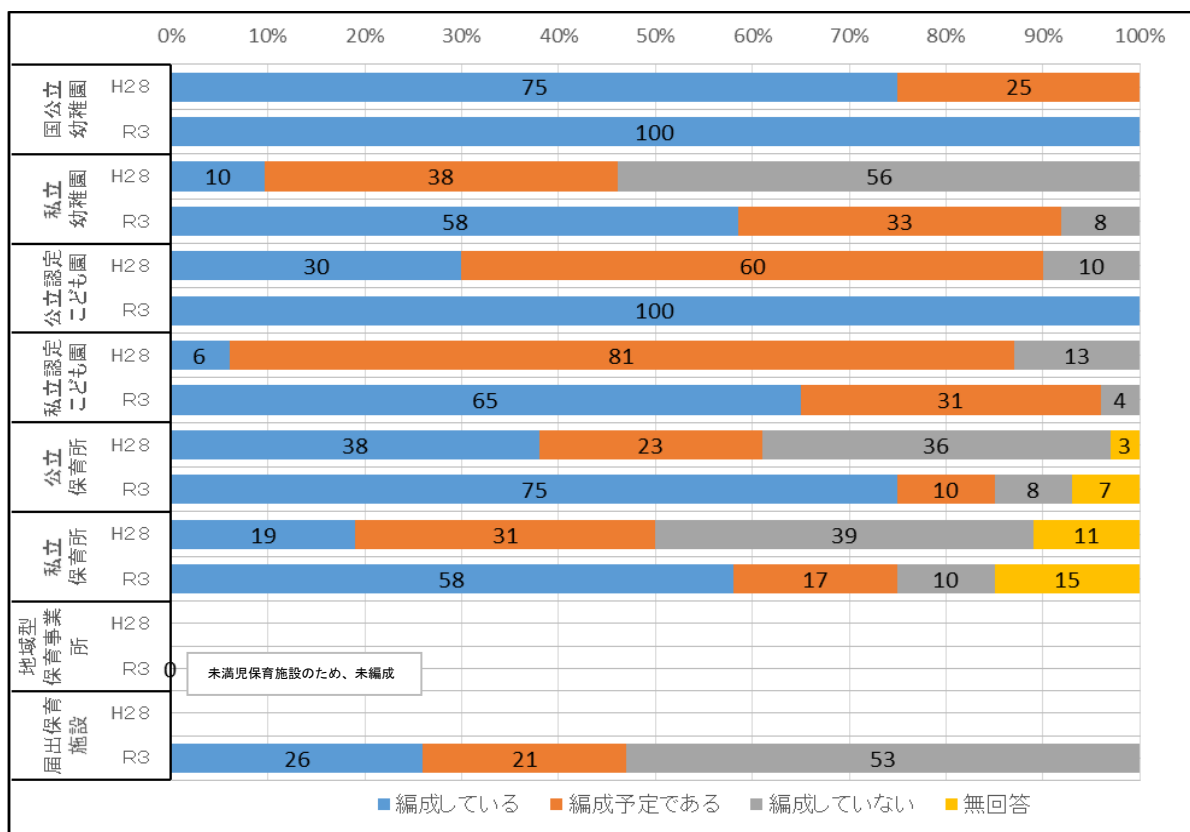
①アプローチカリキュラム編成の有無

【園全体（経年比較）】

	令和3年度		平成28年度	
	園数	割合	園数	割合
編成している	142	↑75.1%	57	27.0%
本年度中に編成する	32	↘16.9%	70	33.2%
編成する予定はない	15	↘8.0%	73	34.6%
無回答	16		11	5.2%

(R3 無回答: 5歳児在籍なしの園)

【施設種ごと】



②小学校教職員との連携・協議の有無

【アプローチカリキュラムを「編成している」「本年度中に編成する」と回答した園】

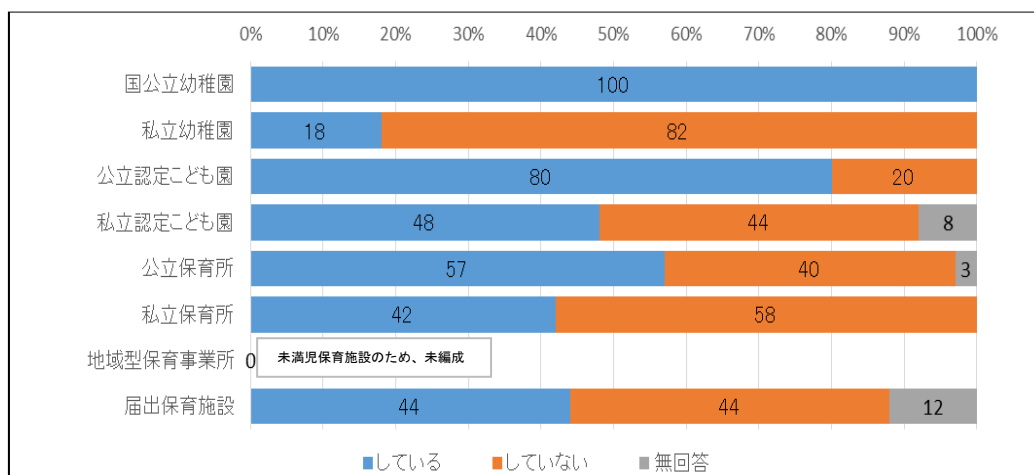
【園全体（経年比較）】

	令和3年度		平成28年度	
	園数	割合	園数	割合
連携・協議している	90	↘52.9%	80	63.0%
連携・協議していない	80	↑47.1%	40	31.5%
無回答	0	0	7	5.5%

矢印は、5%以上の増減

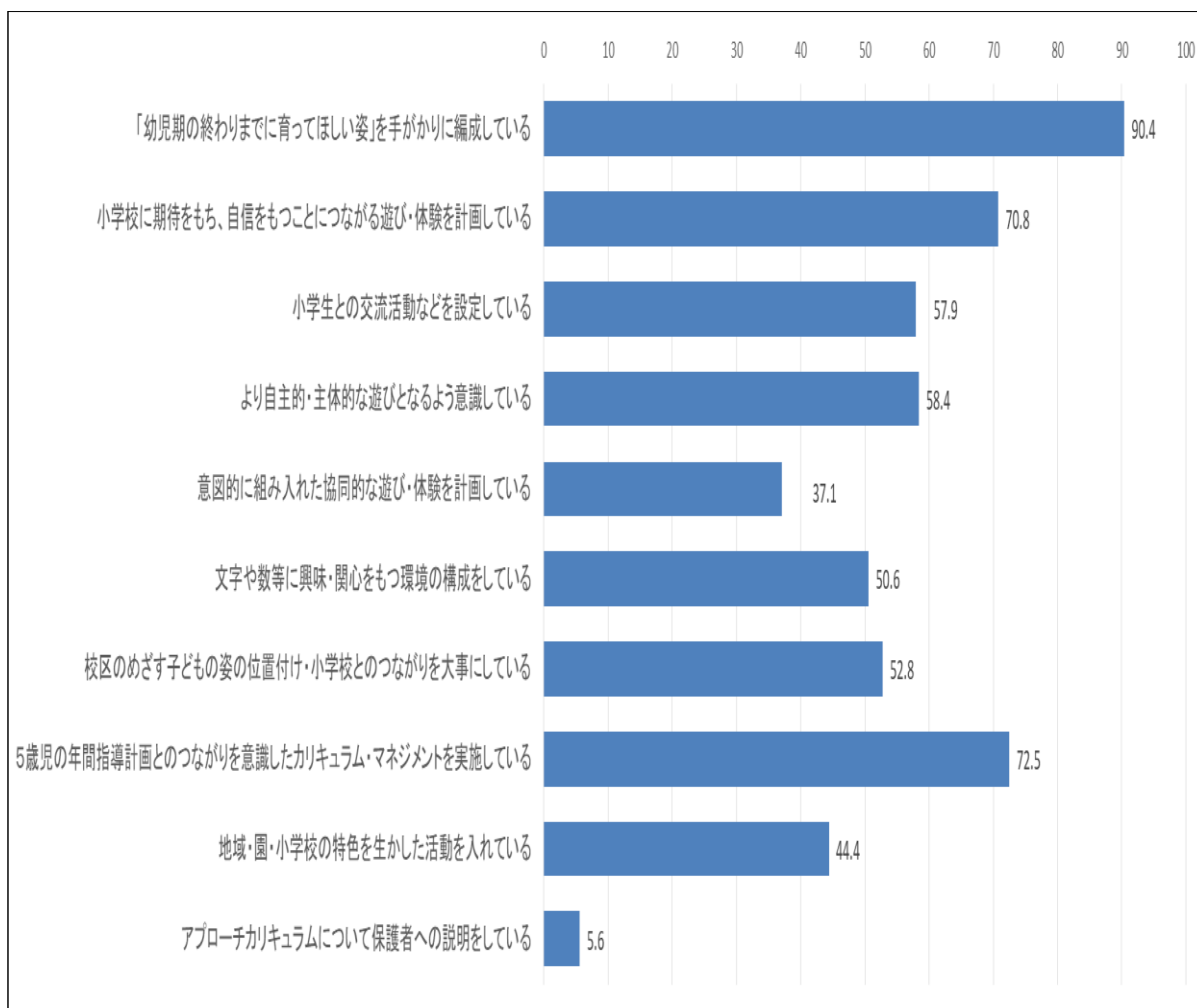
【施設種ごと】

令和3年度、アプローチカリキュラムを「編成している」「本年度中に編成する」と回答した全園



③編成する際に大切にしていること（該当するものすべてに○）

令和3年度、アプローチカリキュラムを「編成している」「本年度中に編成する」と回答した全園

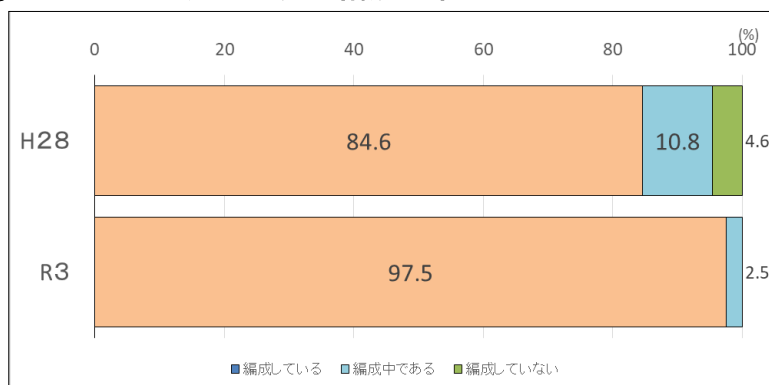


<その他（自由記述）>

- ・安心して小学校生活が送れるために、3月頃（入学前）に歌っている歌や手遊びなどがスタートカリキュラムにつながるようにしている。
- ・校区内の他園からも情報収集をしながら少しずつ進めている。

(2) 【小学校】スタートカリキュラムについて

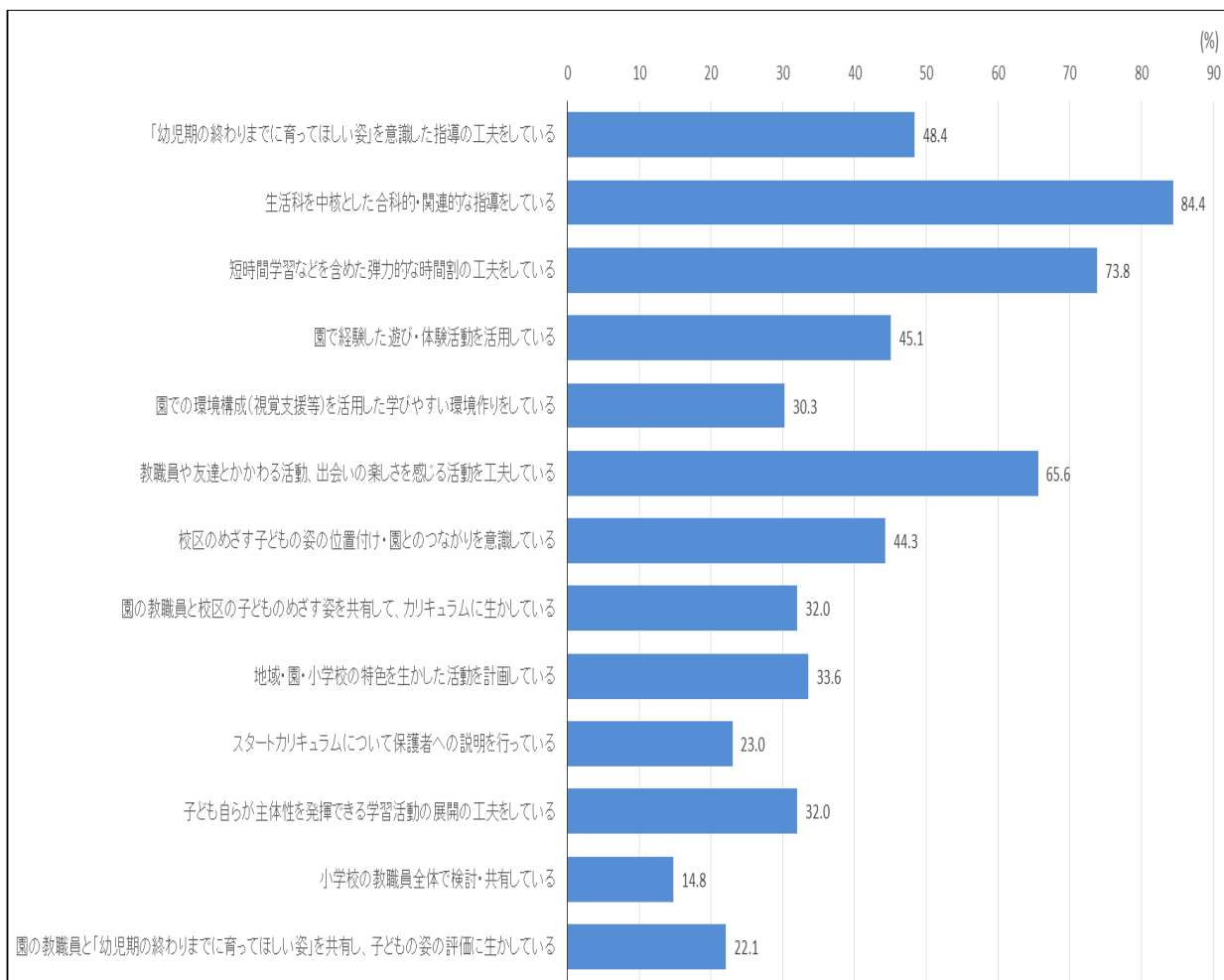
①スタートカリキュラム編成の有無



②校区の園との連携・協議の有無 (R3 新規項目)

	R3
している	64.8%
していない	35.2%
無回答	0%

③編成する際に大切にしていること (該当するものすべてに○)



<その他 (自由記述) >

- ・体験的に学べるようにカリキュラムを編成している。

○接続カリキュラムについて

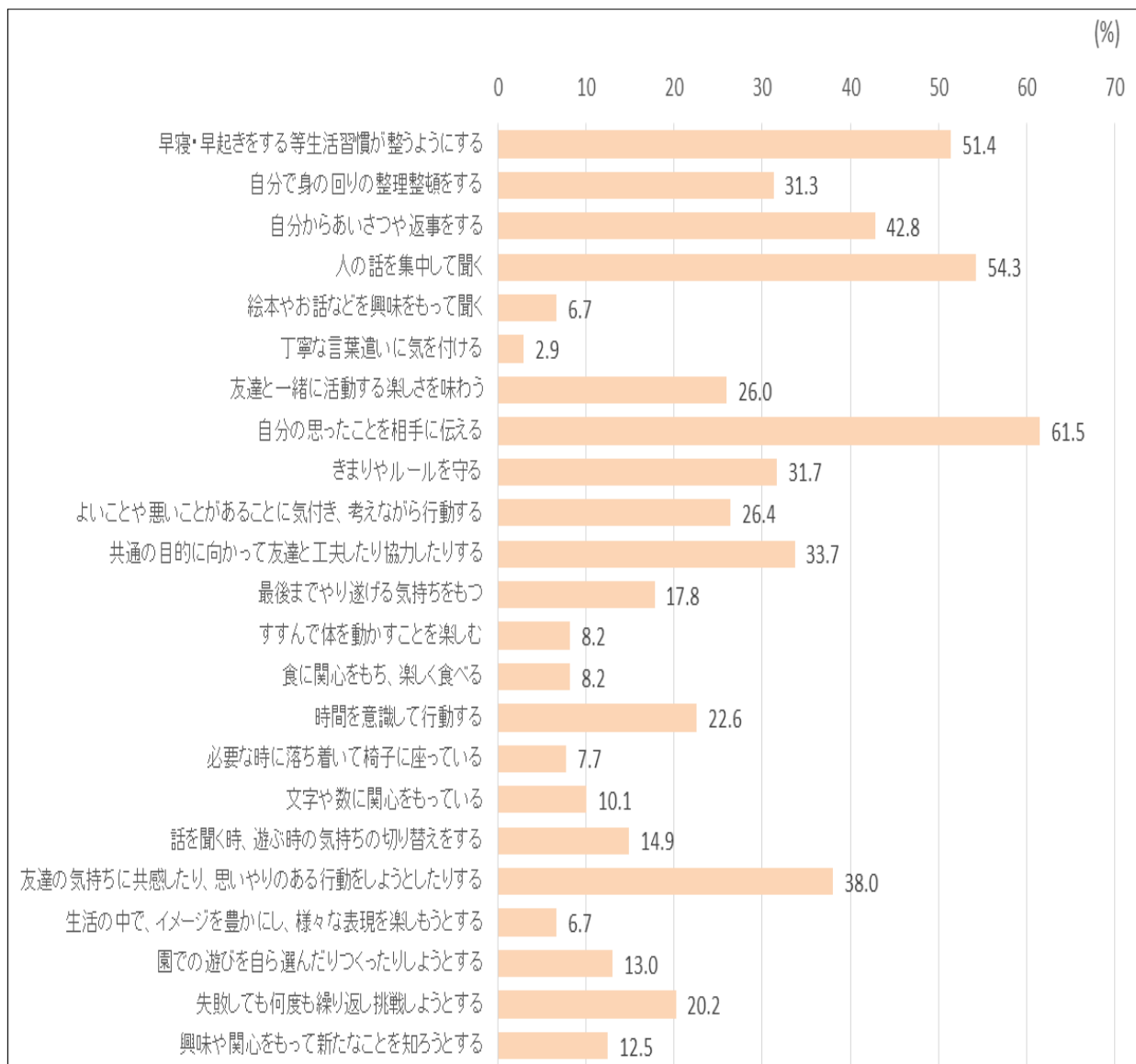
- ・アプローチカリキュラムの編成率は、大きく伸びてきているが、小学校教職員と連携・協議したカリキュラムの編成率は下がっている。また、編成にあたっては、施設種による差もあるため、公・私立の差なく、小学校区の園と小学校との組織をつなぐ取組を推進していく必要がある。
- ・園においては、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を手がかりにしたり、小学校に期待感をもち、自主的・主体的な遊びを多く取り入れたりする等、年長児の年間指導計画とのつながりを意識しながら、カリキュラムを見直し・改善していることが分かる。
- ・約 65%の小学校が校区の園と連携・協議しながらスタートカリキュラムの編成・改善を行っている。また、50%弱の小学校が、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を意識した指導の工夫をしたり、校区のめざす子どもの姿を位置付け、園とのつながりを意識したりする等、園との連携を生かした取組が進んできている。
- ・令和3年度、園においては、52.9%、小学校においては、64.8%が、カリキュラム編成の際に双方との連携・協議を行っていると回答している。今後は、市町村や校区の子どもの実態、めざす子どもの姿を共有し、PDCA サイクルを生かしたカリキュラムとなるよう、年度ごとにカリキュラムの内容の改善・充実を図る必要がある。

3 接続期の子どもの姿について

≪「園」・「小学校」関連調査≫令和3年度

(1) 【園】就学前に小学校への接続を意識して特に大切にしていること

(特に該当するもの5つに○)

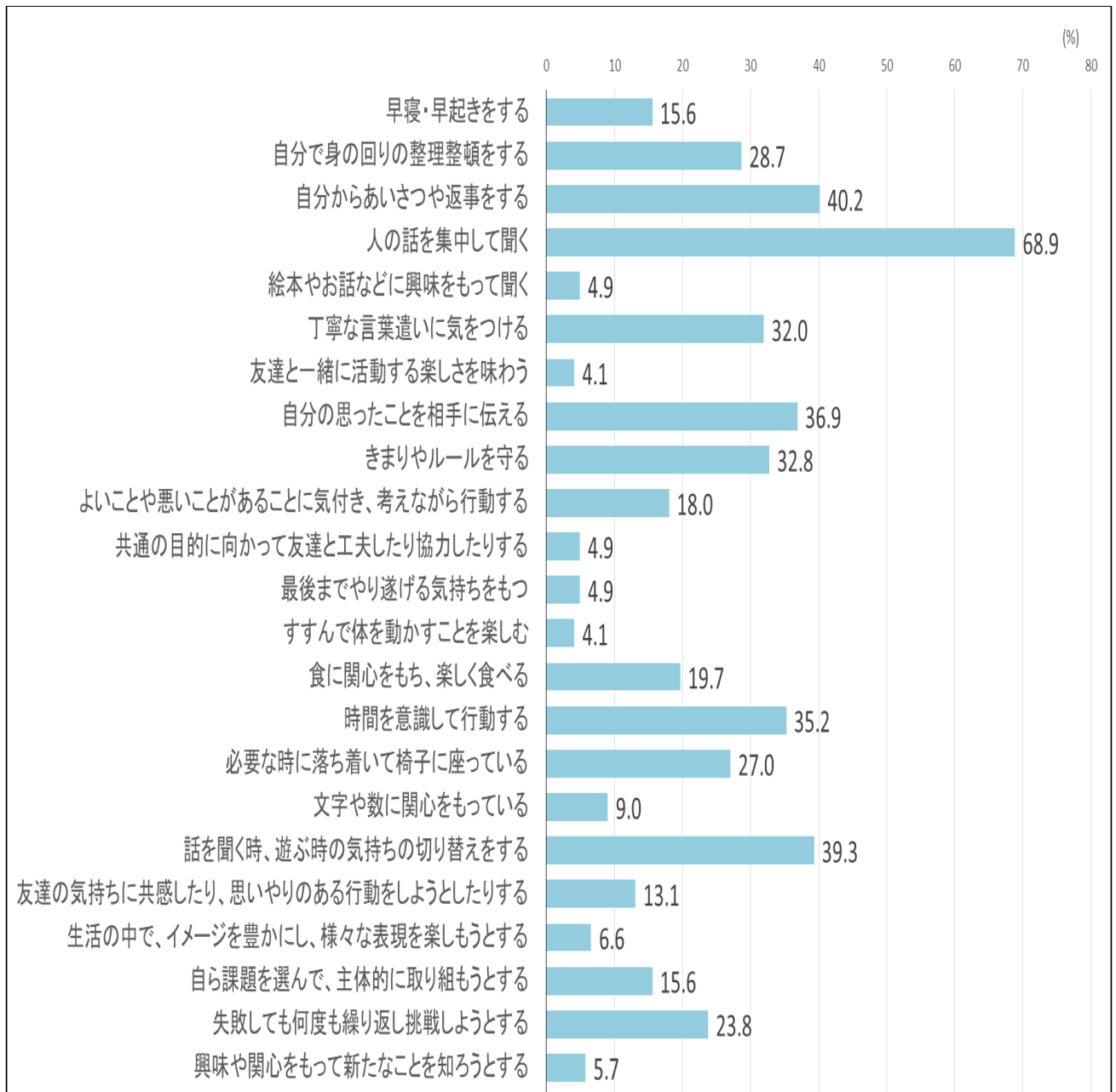


<その他（自由記述）>

- ・「自分の思ったことを相手に伝える」の中でも、特に困ったことや要求が言えることを意識している。

(2) 【小学校】入学当初の1年生の姿として気になること

(特に該当するもの5つに○)

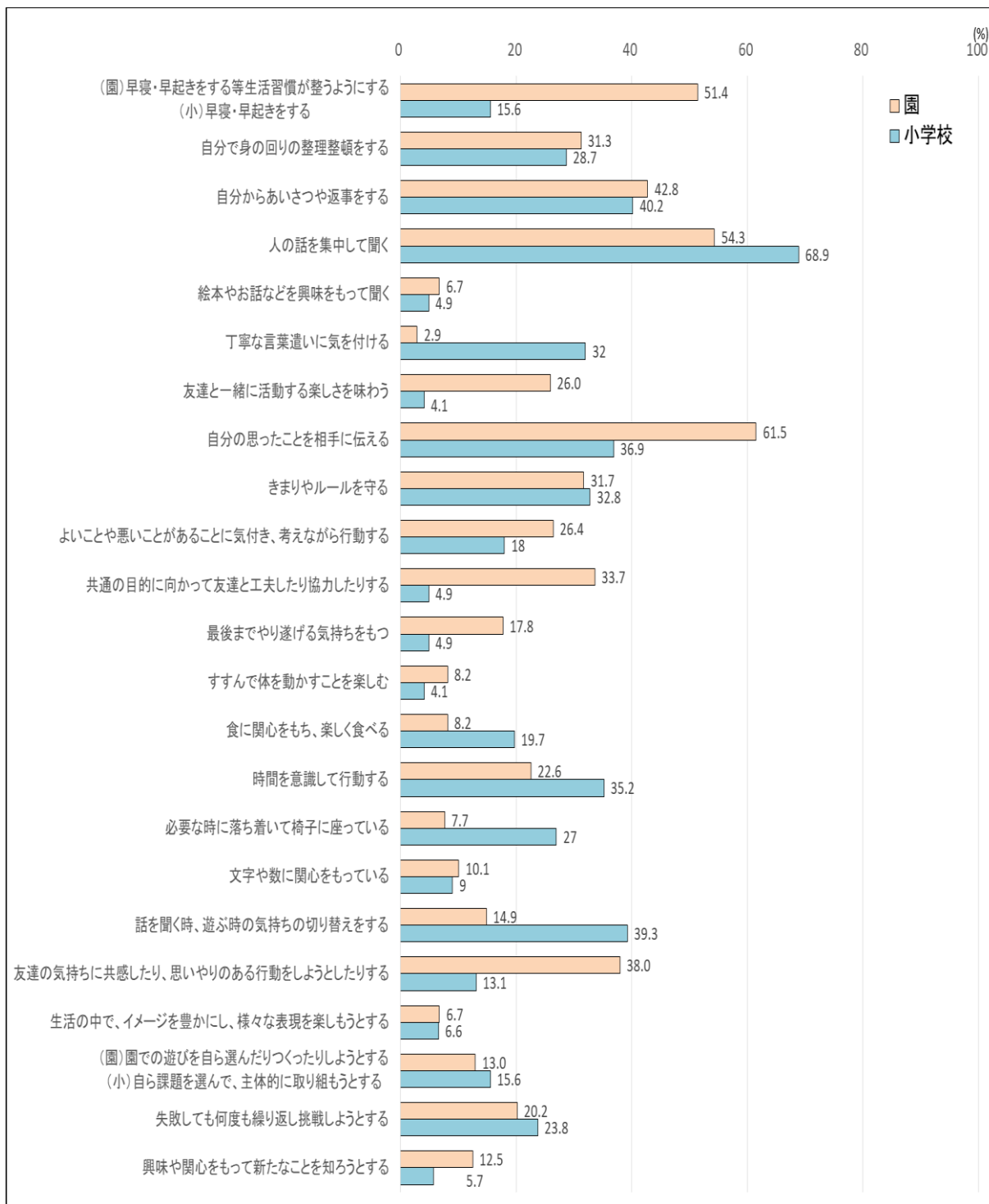


<その他（自由記述）>

- ・生活経験や文字の習得、意欲等での個人差がとても大きい。
- ・興味のないことや苦手なことに対して、消極的な姿が見られる。

(3) 園と小学校の結果比較

- 「【園】就学前に小学校への接続を意識して特に大切にしていること」
- 「【小学校】入学当初の1年生の姿として気になること」



○接続期の子どもの姿について

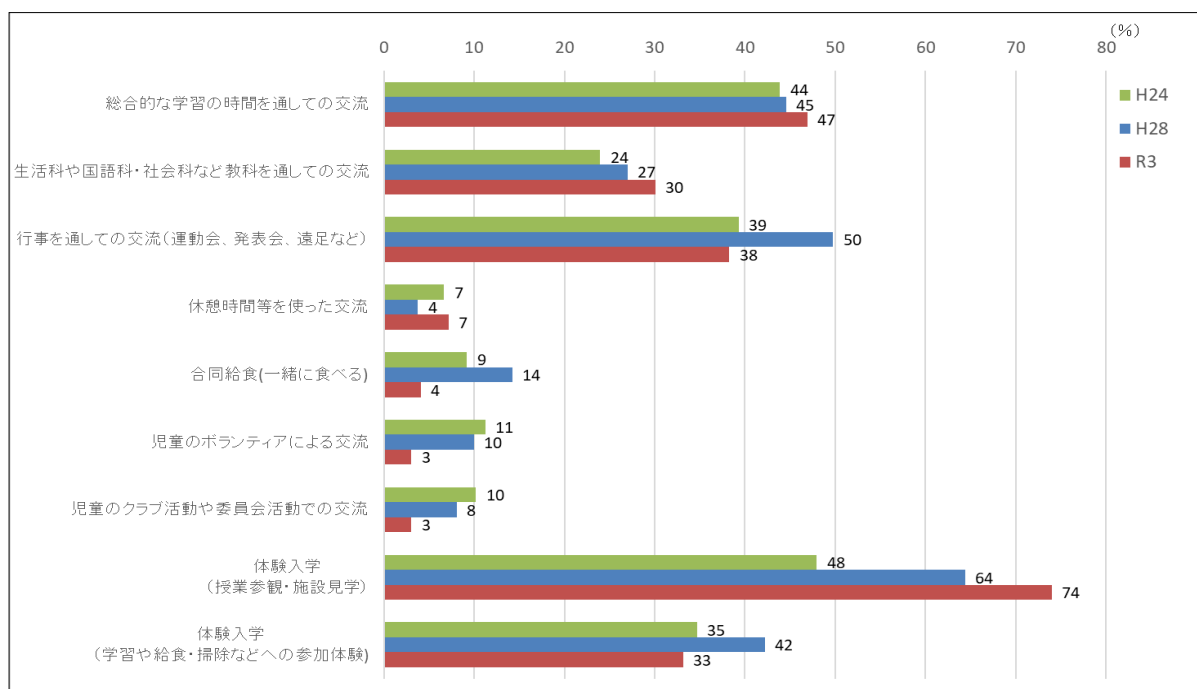
- ・園と小学校では、大切にしている教育・保育の内容や求める子どもの姿など、相互の認識や意識の差が見られる項目がある。
- ・小学校と園の双方が大切にしている保育・教育内容や指導法等について相互理解を深めていくよう、小学校区の教職員が語り合える体制の充実を図っていく必要がある。

4 小学校との交流・連携内容について

《「園」調査》

(1) 小学校との交流・連携の内容 【園全体(経年比較)】

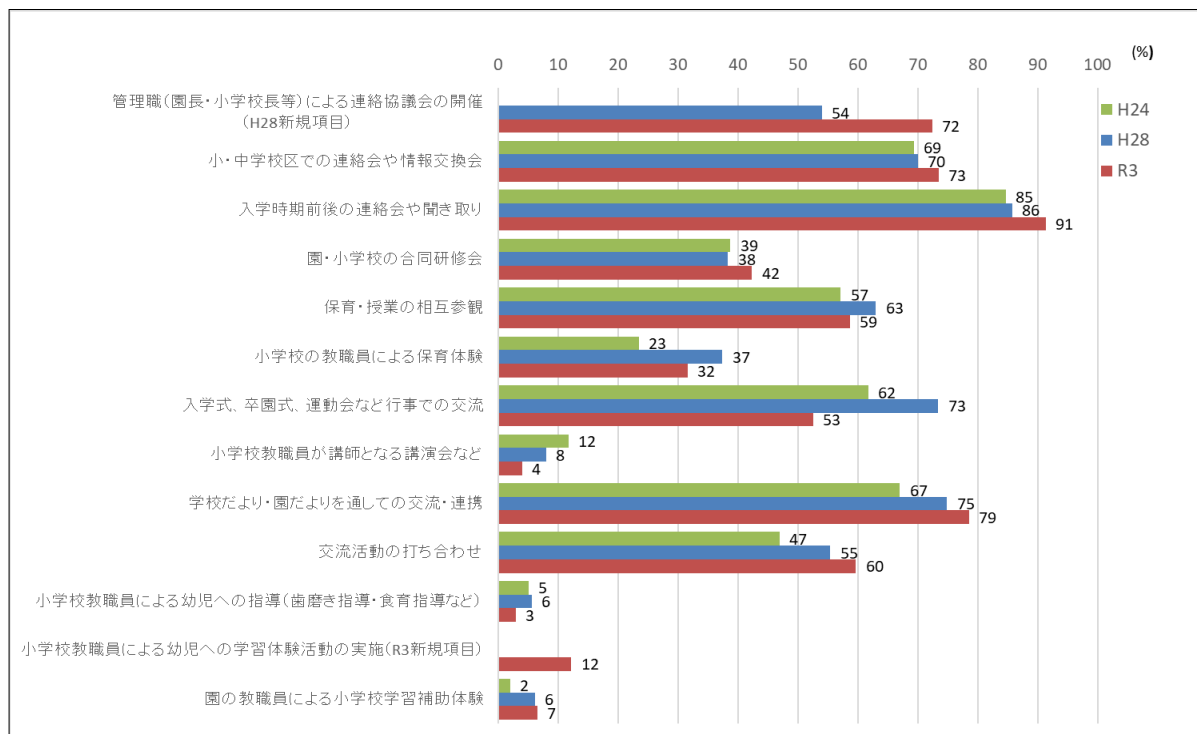
【幼児と児童の交流】(該当するものすべてに○)



<その他(自由記述)>

- ・小学校の年間行事の中にも保育園との交流が位置づけられており、互いに大変スムーズに交流できている。
- ・コロナ禍の交流活動(ビデオレター・Zoom交流会等) ・年長児、保護者対象のオープンスクール

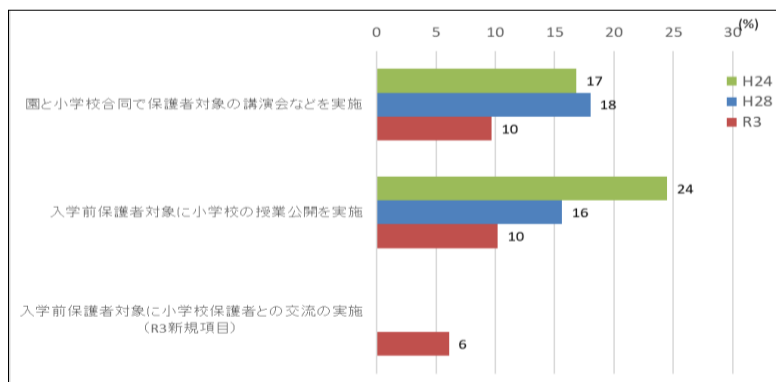
【教職員の交流・連携】(該当するものすべてに○)



<その他(自由記述)>

- ・保育者が小学生に保育者の仕事について授業
- ・小学校教員が年長児に出前授業(「学校ごっこ」)実施
- ・教育委員会指導主事による5歳児訪問(簡単な学習体験・学校クイズ等)・保育者が小学校で絵本の読み聞かせ

【保護者の交流】（該当するものすべてに○）



<その他（自由記述）>

- ・小学校教職員を交えて、年長児保護者対象に小学校入学に向けての懇談会
- ・ノーメディアデーを同一日に取り組む
- ・入学前保護者対象に小学校校長の講演会開催
- ・小学校主体のオープンスクールの際に年長児保護者同志の交流会実施

○小学校との交流・連携の内容について

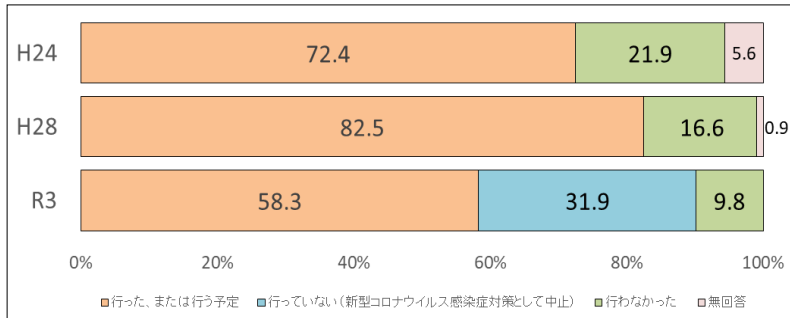
- ・幼児と児童の交流として、総合的な学習の時間や体験入学・行事を通しての交流などが多く、年間計画に基づく実践が進んでいる。
- ・おたよりを通しての連携・交流、交流活動の打ち合わせが進み、校区の日常的な連携が充実していることが分かる。
- ・教職員の交流として、入学前後の連絡会や聞き取りなどの情報交換を通しての交流が進んでいる。
- ・園・小学校の合同研修会や保育・授業の相互参観の数値に大きな減少が見られないことから、コロナ禍であっても、幼児の生活や発達・指導方法を相互に理解しようと努めていることがうかがえる。

5 他園との交流について

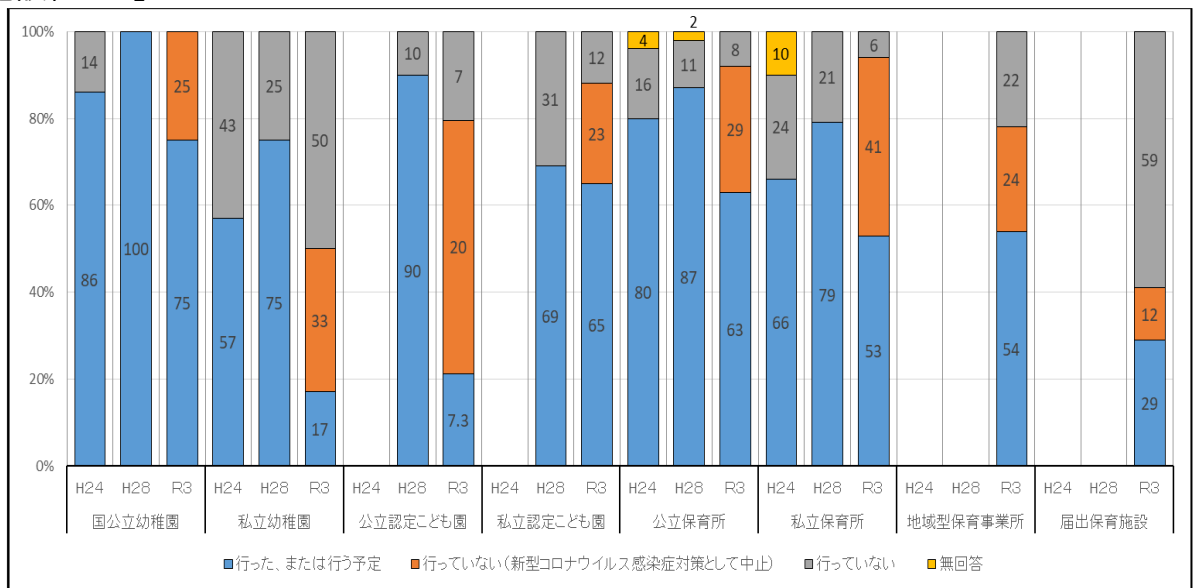
≪「園」調査≫

(1) 他の園との交流の実施

【園全体(経年比較)】

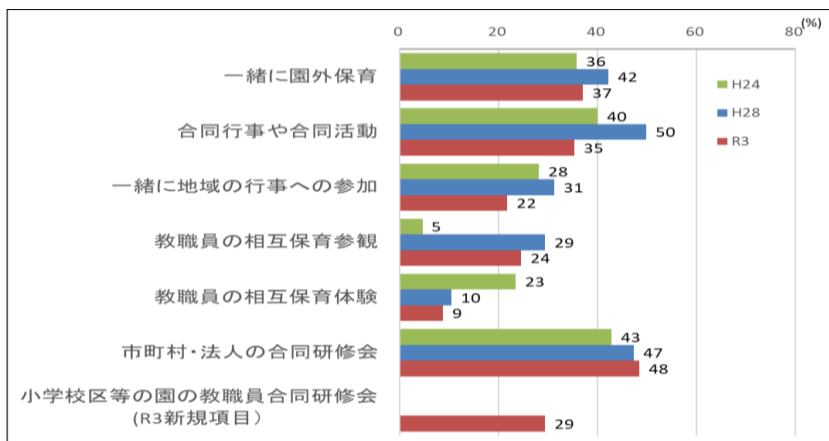


【施設種ごと】



(2) 交流の内容 (該当するものすべてに○)

【園全体(経年比較)】



<その他(自由記述)>

- ・近隣の園で、テーマに基づいて研修(情報交換、実践報告など)
- ・町の公開保育実施と参加
- ・町の年齢別検討会に参加
- ・同じ小学校に就学予定の他園の園児と一緒に小学校の交流に参加

○他園との交流について

- ・コロナ禍でもあり、直接会って行う内容の交流が減少している。
- ・市町村や法人の合同研修を研修の機会として活用し、幼児理解やお互いの園の教育力向上のための取組が進んでいることがうかがえる。

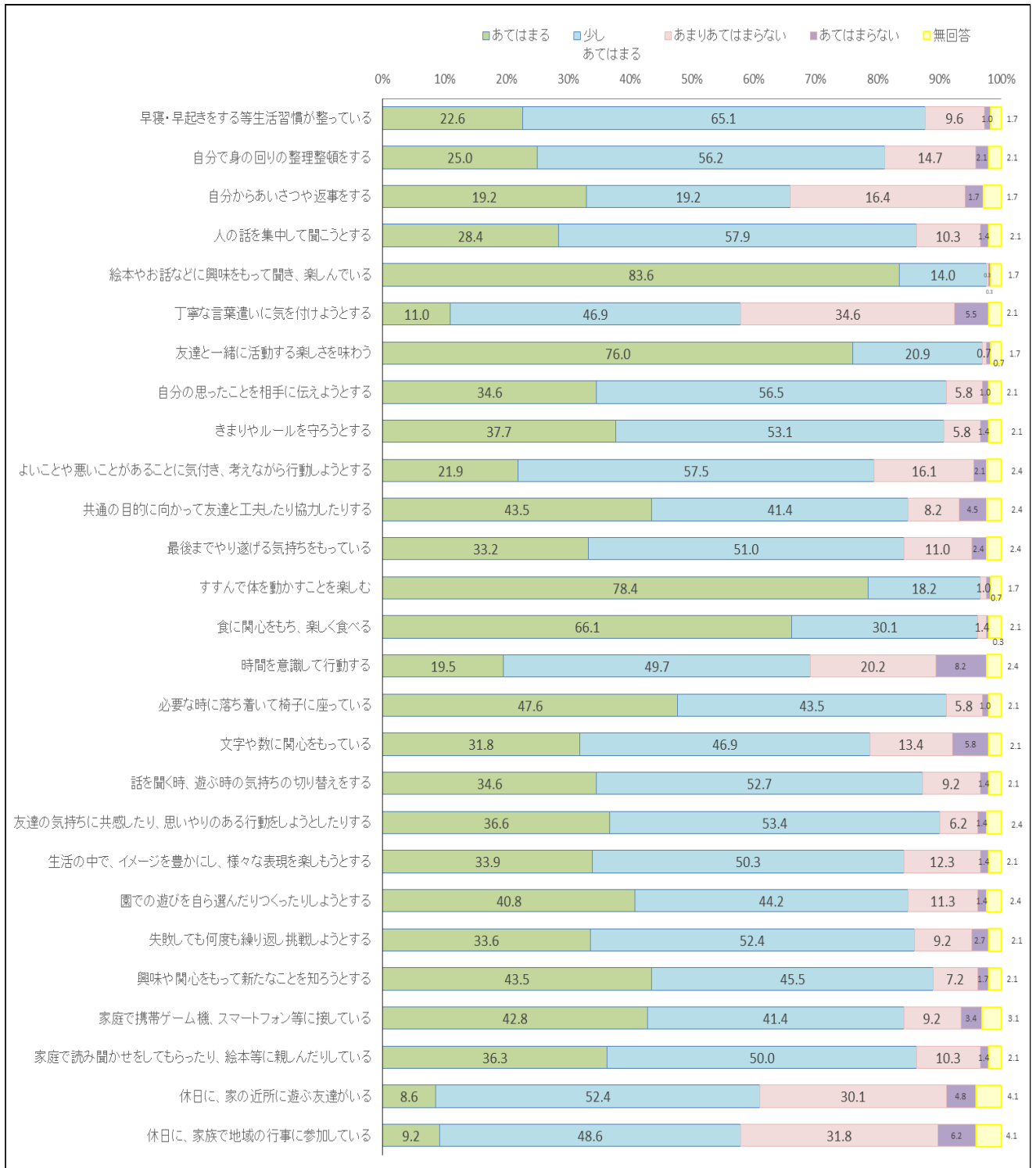
6 幼児の姿について

《「園」調査》

【園全体】

全体的な様子として、あてはまる姿(該当するものすべてに○)

【令和3年度】【園全体】



○幼児の姿について

- ・「あてはまる」「少しあてはまる」という肯定的な回答が多い。
- ・休日の過ごし方については、無回答や「あまりあてはまらない」と回答する園も多いため、家庭や地域で子どもたちがどのように過ごしているのか把握し、園での活動に生かしていく必要がある。

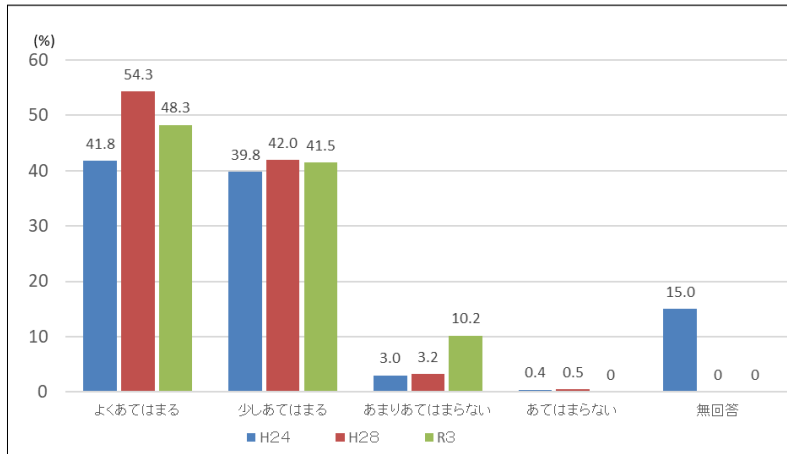
7 教職員の研修について

◀「園」調査▶

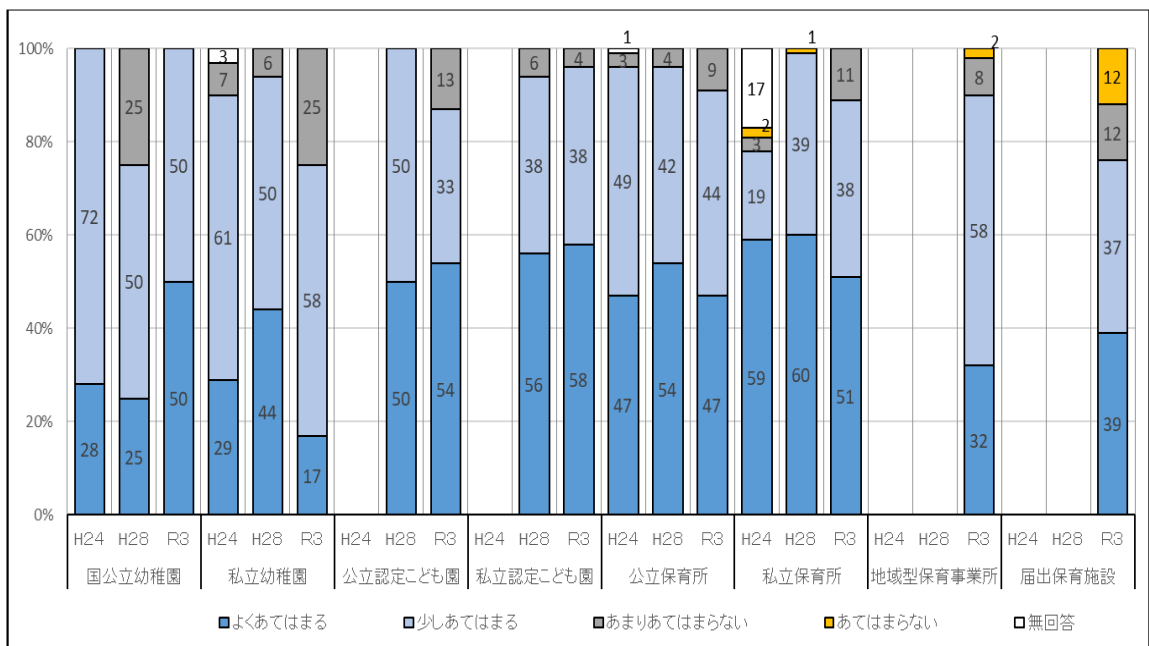
(1) 園外での研修状況

①教職員の園外研修への積極的な参加

【園全体(経年比較)】



【施設種ごと】【園全体】



②園外保育に積極的に参加しづらい理由【園全体】

①で「あまりあてはまらない」「あてはまらない」と回答した園<37園>の理由

(該当するものすべてに○)

理由	園数
仕事が多忙で研修会に参加する時間がない	6
研修会に参加した時の補充体制がとれない	1 1
受けたいと思う研修会がない	0
平日の参加は難しい	4
土曜日や日曜日に開催の研修会がない	1
研修の必要性を感じない	0
その他 ・オンライン研修の整備が間に合わなかった。 ・コロナ感染症を警戒し消極的だった。	1 2

(2) 園内での研修状況

①年間研修計画の作成の有無 (R3新規項目)

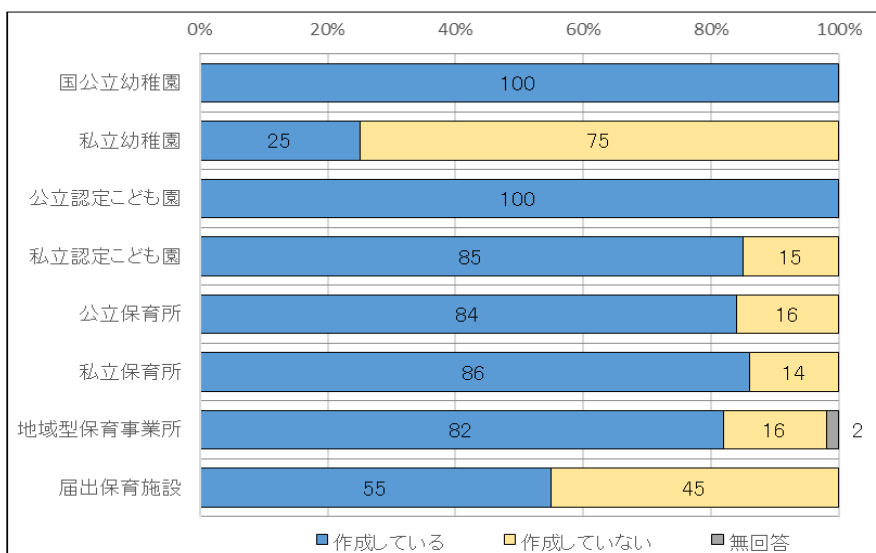
【園全体(経年比較)】 (%)

作成している	作成していない
82.4	17.6

【園全体】 (%)

作成している	作成していない
78.0	22.0

【施設種ごと】



②研究テーマを意識した計画の作成 (R3新規項目)

【園全体(経年比較)】 (%)

意識している	意識していない
73.1	26.9

【園全体】 (%)

意識している	意識していない
65.0	35.0

③正規職員以外の任用の異なる職員等への研修機会の確保の有無 (R3新規項目)

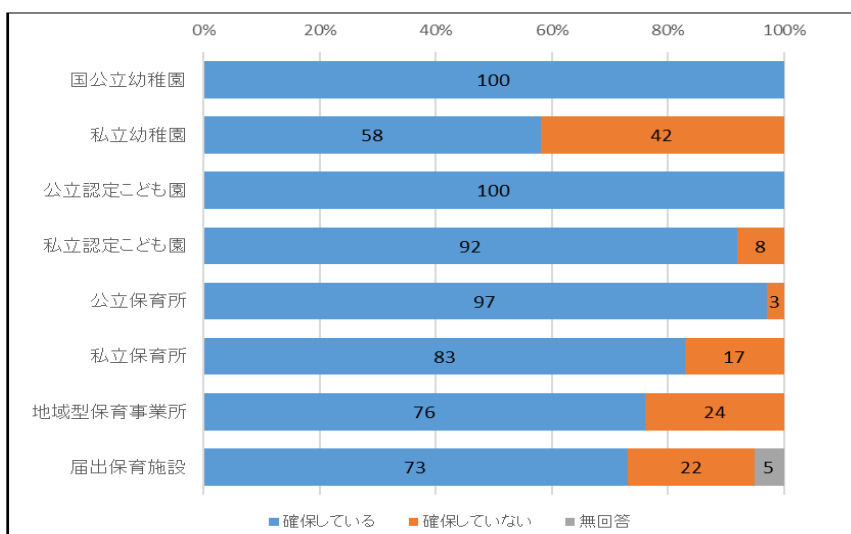
【園全体(経年比較)】 (%)

確保している	確保していない
89.8	10.2

【園全体】 (%)

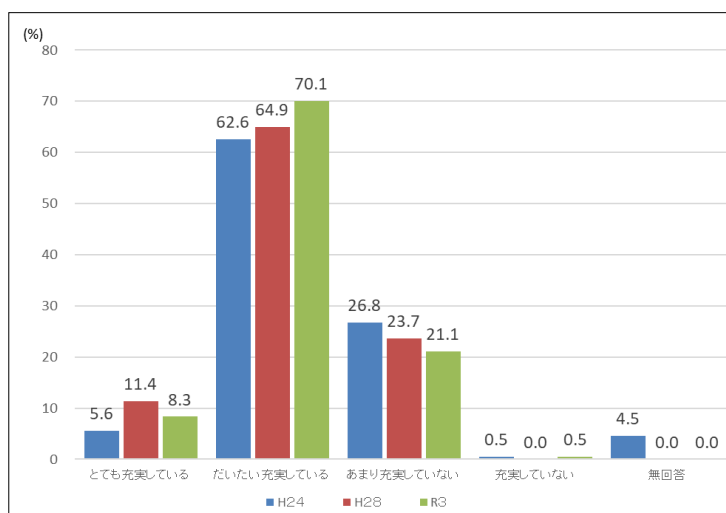
確保している	確保していない
85.9	14.1

【施設種ごと】

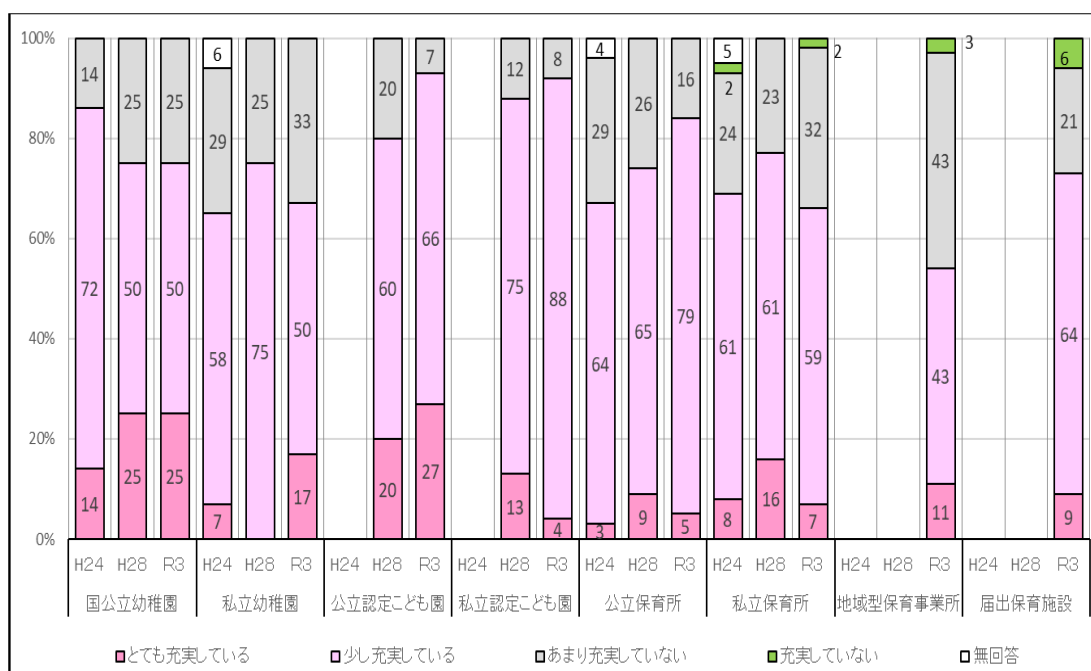


④園内研修の充実

【園全体(経年比較)】



【施設種ごと】【園全体】



⑤園内研修が充実していない理由【園全体】

④で「あまり充実していない」「充実していない」と回答した園<44園>の理由

(該当するものすべてに○)

理由	園数
仕事が多忙で研修する時間がない	22
研修の中心となる職員がいない	5
職員研修の計画がない	5
平日の子どもがいる時間、または時間外の研修は難しい	29
全員そろっての研修会の実施が難しい	38
研修の必要性を感じない	0
その他	2
・研修への意識・意欲の違いがあるため、研修の工夫が必要	
・研修をしても、実践がなかなか変わりにくい	

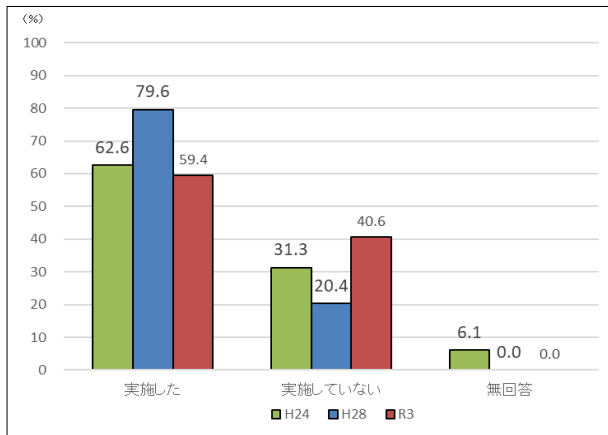
⑥園内研修時間確保のために工夫していること<自由記述>

時間設定	<ul style="list-style-type: none"> ・計画に沿って事前に内容を知らせ、事前の資料持ち寄りなどして1時間以内に実施する。 ・当日までに内容について意見をまとめておいたり資料を作っておいたりするようにし、時間内（毎回1時間）に研修が終えられるようにしている。 ・短時間で終わるようにあらかじめテーマを知らせ、各自考えて参加 ・職員の休暇調整、勤務時間内に実施出来るよう午睡時間を利用している。また、同じ内容で複数回設定し全員参加を目指している。 ・代替パート職員を配置し、全職員に学びの機会があるように午前・午後と会計年度職員と分けて開催 ・一定時間内に研修が深まるよう事前に資料配布しスムーズに研修が行えるようにしている。 ・保育時間外に研修を計画し、多数の職員が参加できるようにしている。
職員体制	<ul style="list-style-type: none"> ・同じ内容の研修を複数回行い、参加の機会を増やす。（全職員参加） ・平日の保育後におこなうため、段取りよく掃除片付けや延長保育の担当の割り当てを行い、より多くの職員が参加できるように工夫 ・勤務時間内に短時間パート職員も含め全員参加するため、同じ研修を2回行っている。 ・パート職員を確保し、保育者の補充が出来る環境づくりをすることにより、研修等への参加を推進している。 ・短時間でも研修が深まるよう、担当者を中心に計画的に研修を実施している。 ・月に1回は、必ず全職員が集まり研修を行っている。 ・代替職員の配置の確保 ・リモート研修時は全職員が参加できるよう、パート職員などを配置している。 ・より多くの職員が参加できるように工夫 ・保育時間外に研修を計画し、多数の職員が参加できるようにしている。 ・月に1回の園内研修確保のため、事前に勤務表を作るときに組み込んでいる。
研修内容	<ul style="list-style-type: none"> ・交替で参加し全員が受けられるように職員ができるだけ揃うようにしている。 ・参加できなかった者へは、記録をとって研修報告する。 ・公開保育については録画し、参加できなかった職員も必ず視聴し、園内研で感想・意見等を持ち寄る。 ・骨子を事前に提示し、自身の考えをまとめる。 ・研修内容について事前に勤務時間内に話し合いの場を設け、その内容を公開し共通理解してから参加するようにしている。 ・正職員と会計年度職員で内容を替えた研修にして参加しやすいようにしている。 ・あらかじめテーマを決め、自分の考えをレポートにまとめ、職員間で内容の共通理解を深めたうえで参加する。 ・クラスリーダーが意見をまとめ、全体会で協議する。 ・クラス単位で研修日を設けたり、職種別に時間を確保したりしている。 ・研修報告書を作成し、職員全員で共通理解できるようにする。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・研修に参加できない職員は、録画DVDを視聴するようにしている。 ・Web研修を交代で視聴することで受講機会を最大限活用している。 ・時間外勤務手当を支給して、18時以降に講師を招いて研修を実施 ・県外の外部講師は、オンライン研修にて実施

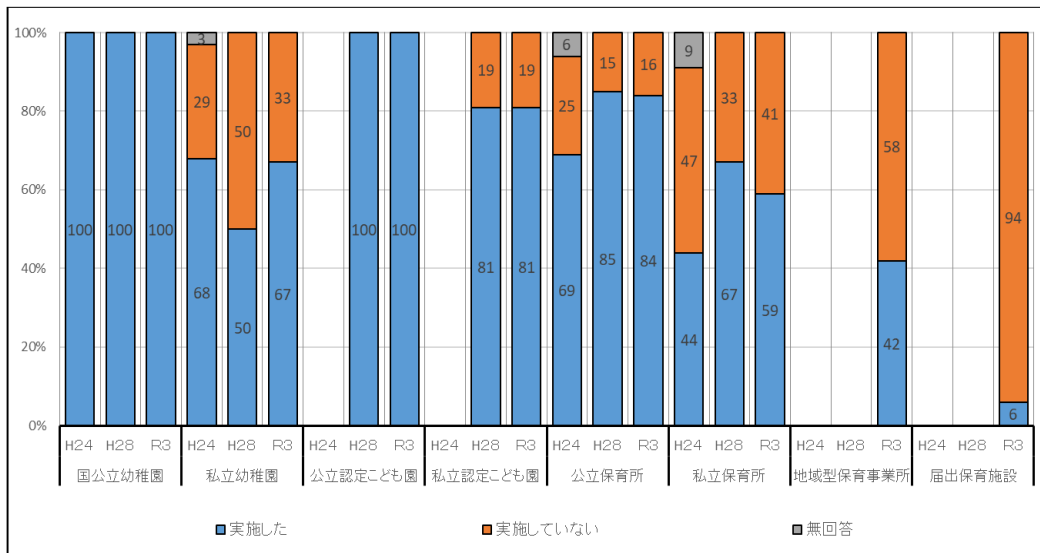
(3) 公開保育・研究保育の実施状況

①令和3年度公開保育・研究保育の実施・実施する予定

【園全体(経年比較)】



【施設種ごと】【園全体】



②「実施した」「実施する予定」園の公開保育・研究保育の内容<155園>

実施内容	合計回数
園内教職員のみで実施	444
外部講師を招いて実施	127
県や市町村の計画訪問等で実施	115
その他 ・町内年齢別研修会：外部講師とリモートでの研修 ・小学校の先生を迎え公開保育 ・法人内による他園の公開保育 等	183

実施園の合計回数
869回
実施園の平均回数
5.6回

○教職員の研修について

- ・令和3年度はコロナ禍でもあり、園外研修への参加率は全体として下がっている。反対に、園内研修の充実度は上がっている。
- ・園内研修については、研修計画を作成し、研究テーマを意識して、園内研修を実施している園が増加していることが分かるが、施設種による差がある。
- ・正規職員以外の職員へも研修機会を確保している園が、89.8%と多いことが分かった。
- ・公開保育・研究保育の実施率は下がっているが、実施している園の平均回数は、増加している。施設種により、取組状況に差があることもうかがえる。
- ・研修時間確保のために、各市町村・園が様々な工夫している。この内容を好事例として知らせる等、各市町村・園で園外研修に参加しやすく、園内研修をより充実させるための環境づくり・体制づくりを進めていく必要がある。

8 特別支援教育について

《「園」調査》

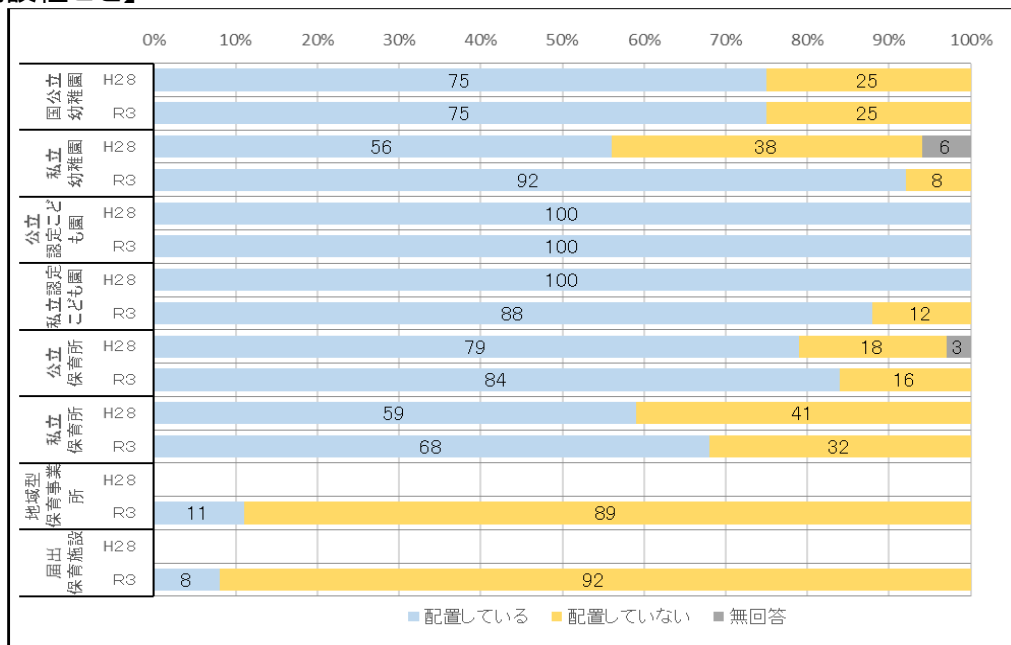
(1) 園務分掌の中での特別支援教育を担当する教職員配置

【園全体(経年比較)】

(%)

	R3	H28
配置している	79.5	73.0

【施設種ごと】



(2) 園内の特別支援教育体制

矢印は、5%以上の増減

	R3	H28
園内委員会の設置	↗43.6	37.4
特別支援教育担当を中心としたチーム支援	28.2	27.0
「個別の指導計画」等を活用した教職員の共通した支援	80.2	76.3
保護者・関係機関と連携した「個別の教育支援計画」作成と活用	↗61.4	53.6
市町村が作成した「支援シート」等を活用した引継ぎ(R3新規項目)	64.9	↘
専門機関による巡回指導・巡回相談等の活用	88.6	91.0
保護者・地域への理解啓発の推進	25.7	24.2
特別支援教育に関する教職員研修	↘59.9	82.5
基礎的環境整備と合理的配慮の提供	35.1	34.1

<その他(自由記述)>

- ・専門機関で定期的な療育
- ・年4回支援会議実施
- ・ケース会議
- ・専門施設などへ出向いた研修
- ・関係機関・専門機関との日常的な連携
- ・発達支援を推進していくリーダー(コアリーダー)の選出及びコアリーダー同士の研修や情報共有

○特別支援教育について

- ・特別支援教育担当の配置が進み、関係機関や小学校、特別支援学校と計画的な連携を行っていることが分かる。
- ・「個別の指導計画」「個別の教育支援計画」市町村の「支援シート」等を作成・活用し、支援を要する幼児への関わりについて、共通理解した上で教育・保育を行っていることがうかがえる。
- ・特別支援教育に関する教職員研修の数値が大きく減少している。
- ・「基礎的環境整備と合理的配慮の提供」「保護者・地域への理解啓発の推進」等の低い項目について、理解啓発による取組の充実を図る必要がある。

9 子育て・親育ちの支援について

≪「園」調査≫※平成28年度の調査項目を一部変更して実施

【園全体】

令和3年度 子育ての支援の具体的な内容

矢印は、5%以上の増減（割合：%）

内 容	在園児の 保護者を対象		在園児以外の 保護者を対象	
	R3	H28	R3	H28
園の経営方針や取組についての説明	90.7	93.4	23.9	22.3
保育参観	90.2	91.9		
保育参加	78.0	82.0		
保護者同士の交流を深める活動	73.2	77.7	14.1	17.5
クラス懇談	81.5	84.4		
未就園の子どもやその保護者への園開放			62.4	63.5
子育て相談	↑81.5	74.9	26.3	29.9
親子読書の推進	65.4	61.1	7.3	7.1
生活習慣づくりに関する取組の推進	62.0	60.7	3.9	6.6
地域の方との交流	↑72.2	66.8	↓7.3	13.3
家庭教育に関する保護者研修会（メディアとの接し方）	51.7		0.5	
家庭教育に関する保護者研修会（親子のふれあいを進める取組）	62.9		5.9	
子育て・家庭教育に関する情報提供	67.8		16.6	

＜その他＞（自由記述）

- ・個人懇談時を活用し、生活習慣づくりに関する取組
- ・おやじの会主催の親子活動
- ・1家庭ずつ保育参加と給食指導（園での食事の仕方、離乳食の食べ方、進め方 等）
- ・在園児保護者対象として人権に関する講演会実施
- ・子育てに関する情報提供等、必要に応じて保護者へ面談
- ・外国人の保護者に対する支援

○子育て・親育ちの支援について

- ・コロナ禍であり、全体的に子育ての支援の取組は減少している。
- ・子育て相談や地域の方との交流については増加していることから、保護者のニーズや地域や園の特色を生かした支援が広がっていることが分かる。